

情 報 公 開 文 書

研究の名称	自己免疫性自律神経節障害における漢方治療の有効性の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学医学部 和漢診療学講座 助教 向野晃弘
研究の概要	<p>【研究対象者】 対象疾患：起立性調節障害，膠原病疾患（シェーグレン症候群，全身性エリテマトーデス，強皮症，関節リウマチ）・消化器疾患（過敏性腸症候群，機能性ディスぺプシア，食道アカラシア，慢性偽性腸閉塞症） 自律神経症状の有無の確認：上記疾患のうち，起立不耐，消化管症状，排尿障害，発汗障害など1つ以上の自律神経症状を有する症例を抽出する．</p> <p>【研究の目的・意義】 和漢診療科を受診する患者に潜在するAAG患者を同定し，「証」に基づいた漢方併用療法の有効性および有効例に特徴的な臨床所見・検査所見を探索する．西洋医学と東洋医学を融合させた，AAGにおける有効な治療法を探究することを目的とする．もしAAG患者への漢方併用療法の有効性が証明できれば，従来の西洋医学による診断・治療アプローチに，東洋医学的な視点を加えた，新たな医療体制の構築が将来可能になると考えている．</p> <p>【研究の方法】 和漢診療科に通院している外来患者で上記の疾患があり，自律神経症状を有している患者を電子カルテから検索し登録する．</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 研究成果は査読ありの英文論文で報告する．最終的な成果は日本東洋医学会，日本和漢医薬学会，日本神経学会，日本神経免疫学会，日本自律神経学会，International Congress of Neuroimmunology，International Society for Autonomic Neuroscience など国内外の学会で発表する．また有用な情報が得られた場合，富山大学の公式ホームページ内で紹介する．画期的な成果が得られた際には，成果をまとめた冊子を作成し，全国の大学や研究機関，急性期病院などに配布する予定である．</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	血液，診療において取得した既存の電子カルテ情報（検査データ，診療記録）を用いて，患者の臨床所見，抗体測定結果などの検査データ，漢方医の診察所見および漢方医学的「証」，漢方薬の有効性の評価を行う。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学医学部 和漢診療学講座 教授 貝沼 茂三郎
研究資料の開示	研究対象者，親族等関係者のご希望により，他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関におけ	富山大学医学部 和漢診療学講座 教授 貝沼 茂三郎

る研究責任者氏名)	
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7393 FAX 076-434-0366 E-mail mukaino@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学医学部 和漢診療学講座 助教 向野晃弘